

各拠点病院が重点的に取り組んでいるがん対策(2025年度)

1. がんの予防

①生活習慣(喫煙) ②生活習慣(飲酒) ③感染症対策(HPV) ④感染症対策(肝炎) ⑤感染症対策(HTLV-1)

2025年度：大腸がん激減プロジェクトで何らかの方針が示された場合はそれに従う

2. がん検診

①科学的根拠に基づくがん検診の実施について ②がん検診の精度管理等について ③受診率対策について

2025年度：大腸がん激減プロジェクトで何らかの方針が示された場合はそれに従う

3. がん医療提供体制

①医療提供全般 ②病理診断 ③がんゲノム医療 ④手術療法 ⑤放射線療法 ⑥薬物療法 ⑦チーム医療の推進 ⑧医療実装

2025年度

- ①造血管腫瘍の遺伝子パネル検査の準備を~~行う~~継続する。(提携先：慶應義塾大学病院)
- ②放射線治療機器の更新が終了し、小線源治療も含め放射線治療を再開する。⇒放射線治療を再開した  
→病院広報誌「ゆいちゅーぶ」へ新機器、医療体制に関する記事を掲載し周知を図った。  
→R8年1月地域医療支援交流会でプレゼンし地域の医療機関へ周知する予定。
- ③がん遺伝子パネル検査について他施設との連携を強め出件数の増加を目指す  
→宮古病院、八重山病院その他関連病院との連携を強化し、パネル検査の広報促進を図る。
- ④ロボット支援下手術体制の定着、手術件数増加に向けた取り組み促進させる。
- ⑤ACPマニュアルの見直しを行い、職員向け研修会を開催。緩和ケア委員会、認定・専門看護師会、地域ケア科においてACP普及促進チームを結成し、ACPの実践に取り組んでいる。
- ⑥がん分野認定看護師（緩和ケア、放射線療法看護、がん薬物療法看護）で患者サポートチームを立ち上げ、具体的な患者支援方法を検討。医師、がん薬物療法認定薬剤師、MSWとの情報共有・連携を図っている。
- ⑦遺伝カウンセリングを適宜実施（臨床遺伝専門医 2 名、認定遺伝カウンセラー 1 名在籍）

4. 緩和・支持療法

①緩和ケア ②在宅療法 ③リハビリテーション ④支持療法 ⑤妊孕性温存療法

2025年

- ①irAE対策チームを立ち上げる  
→irAEの対応方法について救急外来スタッフと共有し、時間外の受診に備える。
- ②グループ指定の八重山病院と宮古病院と共催で1回ずつ年2回の緩和ケア研修会を開催する。  
⇒八重山病院と共催の緩和ケア研修会を9月13日に開催した。宮古病院との共催はR8年1月10日実施の予定。
- ③がんリハビリテーション研修に理学療法士を派遣する。→ R8年2月多職種チームで研修参加予定。
- ④外来受診時、入院時および入院中定期的に「痛みのスクリーニング」を実施し、緩和ケアチームとともに疼痛コントロールの強化を図る。

## 5. 個別のがん対策

①希少がん ②難治性がん ③小児がん ④AYA世代のがん ⑤高齢者のがん ⑥離島・へき地

2025年度

①希少がんや難治性がんの紹介患者を増やす

②石垣・宮古地区のグループ指定のがん診療病院との連携を図り、北部地区の県立北部病院を加えた3病院への専門医の派遣を継続する。離島地域でも腫瘍内科の外来を活用しがん遺伝子パネル検査を依頼できる体制を継続する。

③意思決定能力を含む高齢者機能評価に関する院内マニュアルを整備し、高齢者がんに対応していく。

④地域の訪問・介護ステーションとともに地域で看取った患者の症例検討会を実施した。今後も地域ケア科と連携し、地域で看取りができる体制の整備・支援に取り組む。

## 6. 共生

①相談支援 ②情報提供 ③デジタル化 ④就労支援(医療機関側) ⑤就労支援(職場側) ⑥アピアランスケア ⑦自殺対策 ⑧がん患者の疎外感の解消やがんに対する偏見の払拭

2025年度

①がんと診断された患者が必ず1度はがん相談支援センターを訪問する体制を整える。

→従来の直接来所のほか、電子カルテ上で各診療科からがん相談支援センターの予約が取得できる体制を整えた。

→認定がん専門相談員を新たに1名育成し、専門的研修を履修したがん相談員の確保と支援の質の担保を図る。

→がん相談支援センターの周知を目的に、医療圏内の医療機関へ冊子等の配布、院内のデジタルサイネージ、各診療科外来や案内板の活用、病院広報紙に掲載等に取り組んだ。

②アピアランス支援事業の利用者を増やす。

→がん相談支援センターおよび外来看護師(化学療法室含む)による利用案内リーフレットの配布、院内ポスター掲示、デジタルサイネージ等で周知を図っている。

→緩和ケア週間イベントで就労支援に関する情報提供、相談窓口の案内を行った。

③患者サロンを月1回、定期開催し相談、情報共有の場を確保している。そのほか院内の各職種や県地域統括支援センターなど外部の協力を得てアロマや物作りなどのプログラムを実施している。

## 7. 基盤

①研究の推進 ②人材育成の強化 ③がん教育及びがんに関する知識の普及啓発 ④がん登録の利活用の推進 ⑤患者・市民参画の推進

2025年度

①琉球大学と連携し臨床腫瘍学会専門医を育成する体制を整える。

②がん関連専門職種を育成し、がん診療体制の強化を図る。→がん薬物療法看護認定看護師、新たに1名誕生。がんゲノム医療コーディネーター1名(看護師)修了

③地域市民主催のがん予防・啓発を目的としたチャリティーイベントの後援および参加(令和7年10月25日,うるま市民芸術劇場)

リレー・フォー・ライフへの参加(令和7年11月8日,沖縄大学)

がん予防・啓発のための市民向け公開講座の開催を予定(令和8年2月7日,うるま市健康福祉センター)